

# 事務事業評価シート2(一般事業)

1 基本情報		事業番号	0350/500515/06/00	事業の種類	4
年度	19	事務事業名	適応教室事業	作成日	平成21年1月20日
重要度	4	予算事業名	適応教室事業	担当部課名	学校教育課
政策名	愛着と生きがいを育むまちづくり				
施策名	小・中学校教育		実施計画への記載	無	主要事業の指定
無					
根拠法規及び関連法規					
事業の目的	誰のために(具体的に)	小中学校の児童・生徒			
	誰(何)を対象として	小中学校の児童・生徒			
	意図(どのような状態にしたいのか)	小中学校の不登校児童・生徒の指導・援護による学校復帰を図る。			

## 2 事業の概要 Do

実施の概要	小中学校の不登校児童・生徒に園芸、工芸などの創作活動にグループの一員として参加し、仲間づくりから共に生きることを学び、社会的自立への自信と高揚を図り、学校復帰へ導く。					
活動実績	項目	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度計画
	教育相談	件	35	52	71	70
	ふれあい教室	回	5	5	6	6

## 3 投入資源

会計区分		一般会計			事業費単位:円			
インプット指標	17年度決算	18年度決算	前年比	19年度決算	前年比	20年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.108	0.083	76.9	0.085	102.4	0.081	95.3
	主幹以下職員	0.115	0.115	100.0	0.115	100.0	0.115	100.0
	臨時職員			-		-		-
支出内訳	人件費	1,979,348	1,702,404	86.0	1,740,200	102.2	1,687,952	97.0
	事業費	2,865,590	2,176,866	76.0	2,213,302	101.7	2,161,000	97.6
	合計	4,844,938	3,879,270	80.1	3,953,502	101.9	3,848,952	97.4
財源内訳	国庫支出金	0	0	-		-		-
	県支出金	300,000	300,000	100.0	500,000	166.7	500,000	100.0
	市債	0	0	-		-		-
	その他	15,552	0	-		-		-
	一般財源	4,529,386	3,579,270	79.0	3,453,502	96.5	3,348,952	97.0
	合計	4,844,938	3,879,270	80.1	3,953,502	101.9	3,848,952	97.4

## 4 評価指標

【有効性】

指標名1		ふれあい教室活動							
指標説明(式)		年間活動回数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
回	目標	5	5	100.0	6	120.0	6	100.0	
	実績	5	5	100.0	6	120.0			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

【効率性】

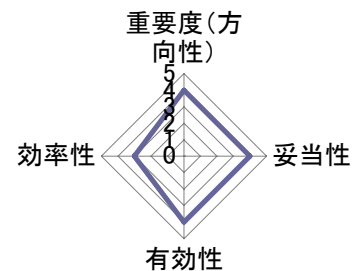
指標名1		教育相談に係る経費							
指標説明(式)		臨床心理士報酬÷年間相談件数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
千円	実績	1,915	2,000	104.4	2,000	100.0	2,000	100.0	
指標名2		活動にかかる経費							
指標説明(式)		ふれあい教室講師報酬÷年間活動回数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
円	実績	3,000	4,000	133.3	5000	125.0	4,000	80.0	

5 事業の評価(19年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	子どもの悩み相談に対し、理解を示し勇気付け、ふれあい教室への参加による学校復帰を図っている。	4	4
	市民ニーズ	地域ぐるみによる支援体制の擁立及びふれあい教室活動参加による自立支援の実施		
有効性	成果目標(改善)達成度	学校復帰など成果が得られた。	3	4
	市民サービス	保護者への理解と協力が得られた。		
効率性	コストの節減	コストに見合った成果を得た。	3	3
	手段の最適性	子どもの特徴に応じた悩み相談、勇気付け、ふれあい教室への参加による学校復帰を図っている。		

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
妥当性	緊急性・優先性	子どもへの救済は緊急を要し、適切な相談支援体制の擁立が必要



7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた20年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	期待する目標	より多くの子どもの学校復帰と勇気づけ
H19→H20予算反映額		△ 52,302

(2) 20年度の実施方針

ふれあい教室への参加による学校復帰を推進する。
-------------------------

検討の有無	—
総合指標	21